

感 自然保護運動

雑 常任理事 富岡山 真

先般、長野県で開催された昭和五九年度の自然保護委員総会(目山協主催・長野県山岳協会主管)に笠原常任理事と出席する機会を得ました。総会は、第八回目で群馬岳連としては今回が初めての参加であった。

総会では、各県の自然保護の現状や活動状況等について報告があったが、各県岳連ともこれからの自然保護活動のあり方について模索しているのが現状である。

群馬岳連も五九年度の役員改選

浜名一雄前会長は、昭和59年一月四日心不全のため逝去された。前会長は明治36年三月八日倉淵村植田に生まれ、高崎中学・東京農大を卒業後、故郷へ帰り、農業に従事したが、やがて植田郵便局長となり、農林技術、農業改良課長、同参事と栄進され、昭和22年第一回の県議会選挙に当選して以来、連続五期当選し、副議長を歴任し、その手腕は高く評価されているところです。また農業関係、県行政各機関での業績も非常に大きいものがあります。

浜名前会長を悼む

副会長 小林二三雄

塔を打ちたてた後、体協会長をきっぱり辞任し、名誉会長となった。前会長は常に先頭にたち各大会や講習会などに参画し、昭和47年には第一次ヒマヤ遠征隊の総隊長として現地に入り指揮をとって下さった。第二次の折にも現地に

風や高原に大座す浅間山(不忽)の名句を残されて、突如として幽明境を異にしてしまわれた。

国体の美酒に酔いしれていた県民の知らぬ間に前会長は病魔に侵され、歳末に高崎君が代橋の車中で奥様と「倉淵の山はいいなあ」

美しく、後輩に伝え、引き継いでいくべき責任を持っている。山の自然をよこしたり、破壊しないよう山を大切に、永遠に美しく保全する。このための活動が岳連の自然保護運動の目的ではないかと思う。

岳連としては、この目的を十分に認識してこれからの運動(活動)のありかたを考えていかなければならない。

従前から行なわれてきた清掃登山やゴミ袋の配布等も目的達成のために欠くことの出来ない活動であり、今後とも引続き実施することが必要であるが、これまでの積み重ねてきた運動を見直し、さらに新しい運動を強力に推し進めること

と遠く鳥川源流の浅間隠山・鼻曲山・角落山をふり返りながら病院へ向われ、再びこの山々を見ることはなかった。前会長は余りに偉大であり、誠実で心暖かく、何時も学問と運動を愛する方であり、本山岳連だけでなく全ての県民に慕われていた方である。

前会長の思い出は尽きないが、今はその御冥福と御遺族の平安をお祈りいたすばかりである。最後に前会長の好まれた詩を記しておきます。

汝は 山河と共に 生くべし
汝の名は 山岳に 刻むべし
流水に画くべし 萩原恭次郎作

なお御遺族は群馬郡倉淵村植田四一七三浜名いそ様です。

理事会報告

期日 昭和五九年一月三日(水)

一九時、体協会館

出席者 星野・小林・田中・太田 大井・女屋・悴田・水野・大沢 下平・村上・長谷川・須田・八木原・富岡・富山

議事

一、関東地区大会役員体制の件
審判部 審判長 太田忠行
副審判長 下平昌弘 村上泰賢
競技部 部長 水野金太郎
副部長 大沢清 女屋等志
競技係長 女屋等志 係一七名

二、関東地区審判員研修会の件
本県が当番であるので、二月か三月中に富岡丘陵でSの研修を中心に行いたい。認められなければRの研修となる。

三、三三三団体予算の件
総額二百万円かかるが、果費補助八〇万・参加料及び分担金五〇万で岳連負担が必要。県内役員の手伝いを得ること不足分の捻出を考えた。一時的には、あかぎ団体の残金をあてていきたい。

四、第一回登りフェスティバルの件
奥秩父小川山の岩場で行った。ジャミング主体の難度のルーフトであった。藤岡山岳会の新井兄弟の指導を受け、石井スポーツの協賛もあり、にぎやかにできた。

五、海外登研から。
梱包三下三下は完了。医師も同行
壮行会は一月六日、二五〇名の参加を予定。山田昇沼田カラカルのマムストーンカンリ雲六登頂初登頂である鈴木太田参加断念トレッキング八名希望あり。

についで若干考察してみたいと思う。

本県を含めて各山岳連が実施してきた自然保護の具体的な活動は、清掃登山、ゴミ袋の配布、広報(啓蒙)活動、バトロール等がその主体となっている。

岳連の活動は、スポーツ団体としての自然保護運動であって、自然保護団体の活動や、一般の住民の運動としての自然保護活動とはその目的等を異にしている。

そこで、岳連として行う自然保護運動の目的を第一に考えてみる必要がある。

自然保護の目的について本紙第三号に私の考えを記載しましたが、登山者は、「山を自然の姿のまま、入らなかつたが、全ての指揮を」として下さった。

そして昭和58年の赤城団体の準備から完全優勝を成しとげるまで、の辛苦は常人の成しとげられることではなかったが、全身全霊をおも学問と運動を愛する方であり、本山岳連だけでなく全ての県民に慕われていた方である。

とが必要である。その一つの運動にあると思う。

自然観察の実施にあたっての具体的方法は今後検討しなければならないが、岳連内に自然観察指導員を養成する等の問題があるが、この問題は、日山協が中心となつて養成にあたることも方法と考える。(現在、財)日本自然保護協会が指導員の養成を行っている。県内の有資格者約一〇〇人)その他岳連でも行政との連携を密にし、環境庁の自然公園指導員や県の自然保護指導員等の制度をもっと積極的に活用し、山岳バトロールを実施する中で自然保護思想の普及啓発につとめることも必要である。

なにかまとまらないものになつてしまつたが、岳連における自然保護運動のこれからのありかたについて思いつくまま私見を記した次第である。

自然観察の実施にあたっての具体的方法は今後検討しなければならないが、岳連内に自然観察指導員を養成する等の問題があるが、この問題は、日山協が中心となつて養成にあたることも方法と考える。(現在、財)日本自然保護協会が指導員の養成を行っている。県内の有資格者約一〇〇人)その他岳連でも行政との連携を密にし、環境庁の自然公園指導員や県の自然保護指導員等の制度をもっと積極的に活用し、山岳バトロールを実施する中で自然保護思想の普及啓発につとめることも必要である。

なにかまとまらないものになつてしまつたが、岳連における自然保護運動のこれからのありかたについて思いつくまま私見を記した次第である。

自然観察の実施にあたっての具体的方法は今後検討しなければならないが、岳連内に自然観察指導員を養成する等の問題があるが、この問題は、日山協が中心となつて養成にあたることも方法と考える。(現在、財)日本自然保護協会が指導員の養成を行っている。県内の有資格者約一〇〇人)その他岳連でも行政との連携を密にし、環境庁の自然公園指導員や県の自然保護指導員等の制度をもっと積極的に活用し、山岳バトロールを実施する中で自然保護思想の普及啓発につとめることも必要である。

なにかまとまらないものになつてしまつたが、岳連における自然保護運動のこれからのありかたについて思いつくまま私見を記した次第である。

自然観察の実施にあたっての具体的方法は今後検討しなければならないが、岳連内に自然観察指導員を養成する等の問題があるが、この問題は、日山協が中心となつて養成にあたることも方法と考える。(現在、財)日本自然保護協会が指導員の養成を行っている。県内の有資格者約一〇〇人)その他岳連でも行政との連携を密にし、環境庁の自然公園指導員や県の自然保護指導員等の制度をもっと積極的に活用し、山岳バトロールを実施する中で自然保護思想の普及啓発につとめることも必要である。

なにかまとまらないものになつてしまつたが、岳連における自然保護運動のこれからのありかたについて思いつくまま私見を記した次第である。

自然観察の実施にあたっての具体的方法は今後検討しなければならないが、岳連内に自然観察指導員を養成する等の問題があるが、この問題は、日山協が中心となつて養成にあたることも方法と考える。(現在、財)日本自然保護協会が指導員の養成を行っている。県内の有資格者約一〇〇人)その他岳連でも行政との連携を密にし、環境庁の自然公園指導員や県の自然保護指導員等の制度をもっと積極的に活用し、山岳バトロールを実施する中で自然保護思想の普及啓発につとめることも必要である。

なにかまとまらないものになつてしまつたが、岳連における自然保護運動のこれからのありかたについて思いつくまま私見を記した次第である。

第 39 回国民体育大会報告

国 体 部

期日 十月十二日、十月十七日
会場 奈良県吉野郡、大峯・大台

奈良 16 点 ② 福島 10 点 ③ 山梨 9 点
⑥ 群馬 6 点
○ 種別順位及び得点
成年男子 ① 奈良 12 点 ② 大阪 9
③ 愛知 8 点 ④ 群馬 8 点
少年男子 ① 奈良 12 点 ② 滋賀 9
③ 愛知 8 点

奈良県選手団
成年男子 ① 奈良 12 点 ② 神奈川 8 点 ③ 群馬 8 点
少年女子 ① 奈良 12 点 ② 岡山 9 点 ③ 福島 8 点
○ 種目成績
成年女子 ▽ 監督 幾原充夫
沼田山岳会 ▽ 選手 下田美和子
(桐生山岳会、三好喜代美(女子雪水クラブ)、山田真由美(沼田山岳会)

山岳競技会場となった大峯・大台ヶ原山系は、奈良県東部の吉野熊野国立公園内にあつて、天川村・上北山村の二村にわたり、紀伊山地のほぼ中央部に位置して、近畿の屋根」と呼ばれる最高峰八剣山(一九一四m)を中心とした中級山岳地帯である。また、この山脈の山々は、古くから修験道が今も続いており、修験者の行場が多

成績結果
○天皇杯(男女総合)得点
① 奈良 19 点 ② 山梨 9.5 点 ③ 愛知 9.5 点
○皇后杯(女子総合)得点
成年男子 ① 奈良 ② 長野 ③ 山梨 ④ 群馬
成年女子 ① 奈良 ② 神奈川 ③ 山梨 ④ 群馬

山岳競技
成年男子 ① 奈良 ② 長野 ③ 山梨 ④ 群馬
成年女子 ① 奈良 ② 神奈川 ③ 山梨 ④ 群馬

天皇杯(男女総合)得点
皇后杯(女子総合)得点
成績結果
天皇杯(男女総合)得点
皇后杯(女子総合)得点
成績結果



奈良国体を振り返って

県体協からポスト群馬国体一年入賞を目指したため、各競技団体がアレシヤールのかかった大会であつた。それは今まで国体を開催した県が総合優勝し、翌年はベスト10位にも入れないことに、スポーツ界を宣言した本県としては、群馬国体を契機としたスポーツの推進を問われることであつた。奈良国体の本県の成績は目標とした天皇杯8位を獲得し達成できた。こうした情勢の中で、山岳競技は、天皇杯は参加得点だけであつたが皇后杯で成年女子が活躍して6位入賞を果たし、九死に一生を得ることができた。しかし、関東地区大会の前は、成年女子と少年女子のチーム編成ができず、成年女子は何とか3名の選手を集め、2回の練習で関東地区大会に臨み、ラッキーにも3位で本番出場権を獲得することができた。少年女子は最後までチーム編成ができず、また、少年男子は予選5位で落ち

反省としては、早くチーム編成をして強化練習を豊富に実施すること。チームの中に経験者がいることが効果的練習ができること。今回の成年女子の成績が物語つてゐる。また、強化体制として群馬国体に向けて緑の下力持ちとなつたコーチ制度の復活と少年も岳連コーチが指導する組織作りが重要だと思ふ。

最後に事務局の仕事をしていて感じたことですが、山岳連盟が県や県体協から援助や協力を得ようとする時、話題となるのが団体の成績です。今回のアンアルナ遠征でも、群馬国体総合優勝の功績があつたからこそ県から多額の援助が得られたのだと思ひます。国体山岳競技の議論は各々意見をお持ちでしょうが、一般的にはこの様な評価をされていますので、今後の国体で、コンスタントに入賞できる様、選手の推薦を始め御協力をお願い申し上げます。

文責 女屋等志

文責 女屋等志

常任理事会報告

期日 昭和五九年一月一日(水)
出席者 小林・太田・樋口・川辺
女屋・倅田・羽野・水野・竹山
高田・加藤・須田・富山・笠原
寺内
昭和五九年一月一日(水)
出席者 田中・女屋・長谷川・高田・川辺・倅田・寺内・西山・水野・竹山・太田・大井
一、遭対部・冬山検討会終了。救助隊員の保険については、現行三〇万円枠の内隊編成をせざるを得ないが、補助のアップを県に要請したい。

二、指導員会、更新未登録者七名
三、国体部 第三九回国体は成年男子種別一四位・成年女子種別三位・皇后杯六位・特に成年女子は選手がよく努力した結果である。
成年男子は九月に選手が決つた状態なので練習不足はいない。
四、群馬の山(仮称)発刊原案
内容は高体連などの専門的知識をとり入れ、ありきたりのガイドブックでなく、特色のあるものにしたい。山の紹介・登山のガイド、地元の特産民俗なども含めたい。分冊で発行したい。組織は核となる編集委員会を中心に、専門的知識についての検討部会や地域毎の執筆者の組織など有機的なつながりを持たせたい。編集委員会は小副会長をキャップに(承諾をいただいた)総務部、高体連から二、三名などで構成したい。出席者全員賛成)煮つまつた原案を早急につくり、理事会にはかる。

四、総務部 日山協作成のカレンダーは二〇〇部全部売却、剰余金

四万円は関東地区大会へ廻す。
五、編集 二四号作成中・二五号はアンアルナ特集にしたい。
六、その他 一月二〇日関東地区代表者会議・二月十七日山協定期評議員会議・一月三十一日県体協競技力向上講習会・日体協からのスポーツ人口調査に協力を。アンアルナ隊は、きびしい寒さにはばまれ、他の隊は皆撤収したが、群馬隊一隊だけが、登頂のチャンスをお願い残留している。国体記録写真集の作成については、時期を失したし、ばう大なるフィルム整理も大変なこと一部散乱していることだから考えて、作成しないことにする。新年会を考えた。次回(二月三日)とする。

今回の編集もまた二時を過ぎた。編集委員が企画を立て、執筆者に依頼し、届いた原稿をチェック、割付けを行なう。執筆者の文体や表現法など原文を生かすべく、最小の誤字訂正などにとどめる。十人十色、その人それぞれの個性を尊重したい。

企画会議の段階ではそれぞれのページ毎の内容を決めるが、原稿をかなりパツサリと切つてしまふこともあるし、編集者がその場で補充することもある。編纂の活動のすべてを網羅できばよいのだが、アンテナを四方八方にめぐらして情報収集を計つても、割りつけが終つて「シマッタあのこと大切だった」とのあとのまづりもしばしば。外ははげしい風の音、今年の冬はきびしい。

編纂後記